

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会
第9回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ
問題・課題総合評価シート及び「耳川通信簿」

目 次

○問題・課題評価シート【山地領域】	1
○問題・課題評価シート【ダム領域】	2
○問題・課題評価シート【河道領域】	3
○問題・課題評価シート【河口・海岸領域】	4
○「耳川通信簿」耳川流域全体（令和2年度）	5

令和3年2月16日

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価						
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2		
						方向性	状態			方向性	状態			
山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出	11.裸地面積	3	主	崩壊地は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると「普通状態」と評価される。	C	b	×	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 令和2年度は、裸地面積、ダム堆砂、ヒアリング(崩壊地、自然景観)、土砂災害発生件数で、「悪化傾向」の評価があったが、その他の項目は「維持傾向」であり、「悪い状態」の評価となった項目がなく、多くの項目で概ね「普通状態」が維持されていることから、山地領域は総合的に「△」と評価される。					
		12.ダム堆砂	5	主	ダム堆砂は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	C	a							
		5.河道縦横断	7	主	対象箇所全体の河積変化率は、至近3年間の変動幅内であるため「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b							
		25.土砂除去量(河道・河口海岸)	14	主	令和元年度は、至近3年間の変動幅を上回るため「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	C	a							
		30.ヒアリング	15		複数の森林管理者から「悪化傾向」の回答を得たことから、「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると「普通状態」と評価される。	C	b							
	(2)土石流等の土砂災害の発生	14.土石流危険渓流整備(土砂災害発生状況)	18		土砂災害発生件数は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	C	b	×						
		15.保安施設整備(土砂災害発生状況)	18											
	(3)自然景観の消失	17.写真観測(自然景観)	21		大規模崩壊跡地は、至近3年間の変動幅範囲内であることから「維持傾向」と評価される。森林管理者ヒアリングにおいて「良い状態」の回答を得た。	B	a	○		【山地領域評価】『△』				
		17.写真観測(親水景観)	21		山地の親水景観は、前年度と比較して大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると「良い状態」と評価される。	B	a							
		30.ヒアリング	28		山地の自然景観の方向性は、「悪化傾向」との回答があった。自然景観の状態は、「良い状態」の回答を得た。	C	a							
	(4)生物生息生育環境の変化	30.ヒアリング	31		生物生息生育環境の方向性は、森林管理者のヒアリング結果から、「維持傾向」と評価される。状態は「普通状態」と評価される。	B	b	△						
	(5)産業基盤の流出	11.裸地面積	34		崩壊地は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると「普通状態」と評価される。	C	b	△						
		27.流木処理実績	35		現在とりまとめ中のため、今回WGでの評価対象外	-	-							
		26.漂着物量(河道・河口海岸)	36		令和元年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて「普通状態」の回答を得た。	B	b							
16.路網密度		37	主	現在とりまとめ中のため、今回WGでの評価対象外	-	-								
	30.ヒアリング	38		山林、作業道の管理状況は、「維持傾向」及び「普通状態」の回答があった。	B	b								
(6)渇水緩和機能の低下	13.流況	41		渇水緩和機能は、流況分析の結果、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△							
(7)洪水緩和機能の低下	13.流況	41		洪水緩和機能は、流況分析の結果、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△							
(8)砂防施設容量減少	23.写真観測(砂防施設)	50		砂防施設容量は、十分確保されている状態が維持されており、「維持傾向」及び「良い状態」と評価される。	B	a	○							

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【ダム領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価					
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2	
						方向性	状態			方向性	状態		
ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度低下	12.ダム堆砂	2		ダム貯水池末端部の河床高は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。状態は、背水の影響はみられないことから、「普通状態」と評価される。	C	b	×					
	(10)利水容量の減少	12.ダム堆砂	13		利水容量内の堆砂は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△					
	(11)取水口の埋没	12.ダム堆砂	20		取水口付近の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△					
	(12)放流設備の機能障害	27.流木処理実績	27		現在とりまとめ中のため、今回WGでの評価対象外	-	-	-	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 令和2年度は、ダム堆砂、水質、底生動物、付着藻類、ヒアリング(全項目)に関して「悪化傾向」、またダム堆砂、水質、ヒアリング(全項目)、で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。				
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		上椎葉ダム、岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木の残留状況を確認したが、それ以外のダムでは流木の残留状況は確認されなかった。	-	-	-					
	(13)利水設備の機能障害	27.流木処理実績	27		現在とりまとめ中のため、今回WGでの評価対象外	-	-	-					
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		上椎葉ダム、岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木の残留状況を確認したが、それ以外のダムでは流木の残留状況は確認されなかった。	-	-	-					
	(14)生物生息生育環境の変化	1.水質	33		出水時の濁水は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。濁度の回復状況は、「悪い状態」と評価される。	C	c	×					
		6.魚類	39		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて複数の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c						
		7.底生動物	41		ダム貯水池内の底生動物は、造網型指数は至近3回の調査結果の変動幅内に入るが、出水により底生動物全体の種数が減少していることから、総合的に「悪化傾向」と評価される。	C	-						
		8.付着藻類	43		令和2年度は、台風10号出水後、細胞数、クロロフィルa、種類数ともに増殖しているが、濁水の影響により、至近3年間より小さな傾向であるため、「悪化傾向」と評価される。漁協ヒアリングでは、「悪い状態」の回答を得た。	C	c						
		30.ヒアリング	45		漁協ヒアリングにおいて「悪化傾向」および「悪い状態」の回答を得た。	C	c						
		6.漁獲量(内水面)	46		現在とりまとめ中のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
	(15)生物生息空間の連続性遮断	2.河床材料	49		河床材料の粒度分布は、大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c	×					
		6.魚類	51		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて複数の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c						
7.底生動物		52		ダム貯水池内の底生動物は、造網型指数は至近3回の調査結果の変動幅内に入るが、出水により底生動物全体の種数が減少していることから、総合的に「悪化傾向」と評価される。	C	-							

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河道領域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2	令和2年度は、台風10号出水後、細胞数、クロロフィルa、種類数ともに増殖しているが、濁水の影響により、至近3年間より小さめの傾向であるため、「悪化傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」の回答を得た。	C	c	×					
		30.ヒアリング	4	付着藻類の変化に関する漁協ヒアリングにおいて、「悪化傾向」の回答があった。状態は、ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	C	c						
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	6	河川景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		17.写真観測(親水景観)	6	親水景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると、「良い状態」と評価される。	B	a						
	(18)生物生息生育環境の変化	1.水質	29	出水時の濁水は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。濁度の回復状況は、「悪い状態」と評価される。	C	c	×					
		2.河床材料	35	河床材料は、各河川区間ともに大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	B	c						
		4.河道形状	37	河道形状は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて、河道領域全体ではおおむね「悪い状態」との回答であった。	B	c						
		6.魚類	41	全体の種数・個体数の大きな変化がみられず、アユ産卵床は至近3年間の変動幅の範囲内の箇所数が確認されたことから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて複数の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c						
		7.底生動物	46	ダム貯水池内の底生動物は、造網型指数は至近3回の調査結果の変動幅内に入るが、出水により底生動物全体の種数が減少していることから、総合的に「悪化傾向」と評価される。	C	-						
		8.付着藻類	48	令和2年度は、台風10号出水後、細胞数、クロロフィルa、種類数ともに増殖しているが、濁水の影響により、至近3年間より小さめの傾向であるため、「悪化傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」の回答を得た。	C	c						
		9.河岸植生	49	今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
		29.水質、底生動物	51	方向性は、至近3年間の変動幅を下回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、平均点が3.17点であることから「普通状態」と評価される。	C	b						
		30.ヒアリング	53	生物生息生育環境に関して、「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答が多かった。	c	c						
		6.漁獲量(内水面)	54	現在とりまとめ中のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
	(19)瀬・淵の消失	4.河道形状	57	瀬・淵の数は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて、河道領域全体ではおおむね「悪い状態」との回答であった。	B	c	×					
	(20)橋脚の不安定化	5.河道縦横断	59	橋脚基礎は、前年度と比較して大きな変化は見られず、問題も生じていないことから、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	59	橋脚基礎の状況に大きな変化は見られず、安全性に関して大きな問題はない。	-	-						
	(21)護岸基礎部の被災	5.河道縦横断	64	護岸基礎部は、前年度と比較して大きな変化は見られず、問題も生じていないことから、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	64	護岸基礎部の状況に大きな変化は見られず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	-	-						
	(22)取水の不安定化	1.水質	70	水道原水水質は、至近3年間の変動幅及び設定した基準値を上回ることから、「悪化傾向」、「悪い状態」と評価される。	C	c	×					
		5.河道縦横断	71	富島幹線用水路は、大きな変化は見られないが、前年度同様、ポンプアップによる取水を行なっていることから、「維持傾向」及び「悪い状態」と評価される。	B	c						
		24.写真観測(取水口堆砂状況)	71	取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	-	-						
	(23)治水安全度低下	5.河道縦横断	74	対象箇所全体の河積変化率は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	81	河川状況や構造物基礎の状況の大きな変化は見られない。	-	-						
(24)氾濫発生時の被害拡大	31.水害統計資料	98	現在とりまとめ中のため、今回WGでの評価対象外	-	-	-						
	20.写真観測(洪水時流下状況)	99	台風10号洪水時に一部流木の漂着が確認された。	-	-							

【河道領域目標】
適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。

河道領域評価：「△」

【評価コメント】
令和2年度は、ヒアリング(全項目)、付着藻類、水質、底生動物、水質、底生動物に関して「悪化傾向」、またヒアリング(全項目)、水質、河道縦横断(取水口)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河道領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

	治水面(防災面)
	利水面(水利用面)
	環境面

個別評価凡例

【方向性】A:改善傾向, B:維持傾向, C:悪化傾向
【状態】a:良い状態, b:普通状態, c:悪い状態

評価凡例

○:問題なく良いレベル
△:普通のレベル
×:問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河口・海岸領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河口・海岸領域	(25) 生物生息生育環境の変化	1. 水質（海域：出水時）	3	出水時水質は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった。	B	b	△	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 土砂除去量、ヒアリング(全項目)に関して「悪化傾向」、また河道縦横断に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。				
		3. 底質（海域：出水時）	7	至近3年間の変動幅を超える値が確認されたことから「維持傾向」と評価される。化学分析項目は、全項目で汚れの目安値以下であることから「良い状態」と評価される。	B	a						
		6. 漁獲量（海域）	9	漁獲量（海域）は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答であった。	B	c						
		6. 漁獲量（内水面）	9	現在とりまとめ中のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
		7. 底生動物（海域：出水時）	11	底生動物（出水時）の方向性は、概ね至近3年間（平成29年度～令和元年度）の調査結果の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。	B	-						
		10. 藻場（海域）	13	至近3年間と比較して分布範囲の拡大がみられることから、「改善傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった。	A	b						
	(26) 防災機能の低下	28. 航空写真（汀線比較）	18	今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	-					
	(27) 親水空間の減少	17. 写真観測（景観・親水）	21	海岸の親水景観に大きな変化は見られない。	-	-	-					
		28. 航空写真（汀線比較）	23	今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	-					
	(28) 港湾施設の埋没	25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	26	令和2年度は、至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	C	a	△					
	(29) 治水安全度低下	5. 河道縦横断	29	河積変化率の平均は、至近3年間の変動幅内であるため「維持傾向」と評価される。基準年を上回っており「良い状態」と評価される	B	a	○					
	(30) 船舶の航行（操業上）の支障	5. 河道縦横断	34	航路深さは至近3年間と比較し範囲内となっていることから「維持傾向」と評価される。必要深さは100%確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×					
		25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	35	令和2年度は、至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	C	a						
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	36	台風10号発生時の写真では、流木の流下は見られない。また、日向市漁協へのヒアリングでは、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得ている。	-	-						
		21. 写真観測（海域漂流状況）	36	台風10号発生後の写真では、流木の海域漂流は見られない。また、日向市漁協へのヒアリングでは、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得ている。	-	-						
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	36	台風10号発生後の写真では、流木の海岸漂着はみられない。また、日向市漁協へのヒアリングでは、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得ている。	-	-						
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	38	令和2年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった。	B	b						
		30. ヒアリング	39	流木漂着等による船舶の航行の支障は、日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪化傾向」及び「普通状態」の回答であった。	C	b						
	(31) 海岸環境悪化	22. 写真観測（海岸漂着状況）	42	台風10号発生後の写真では、流木の海岸漂着はみられない。漁協ヒアリングの結果「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答であった。	-	-	△					
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	43	令和2年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった。	B	b						
	(32) 漁業（操業）の支障	26. 漂着物量（河道・河口海岸）	46	令和2年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった。	B	b	△					
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	47	台風10号発生後の写真では、流木の海岸漂着はみられない。漁協ヒアリングの結果「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答であった。	-	-						
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	48	台風10号発生後の写真では、流木の海岸漂着はみられない。漁協ヒアリングの結果「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答であった。	-	-						
6. 漁獲量（海域）		49	漁獲量（海域）は、至近3年間の変動幅内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答であった	B	c							
	30. ヒアリング	50	漁業（操業）の支障に関して、「悪化傾向」及び「普通状態」の回答であった。	C	b							
(33) 氾濫発生時の被害拡大	31. 水害統計資料	52	現在とりまとめ中のため、今回WGでの評価対象外	-	-	-						
	20. 写真観測（洪水時流下状況）	53	台風10号発生後の写真では、流木の海岸漂着はみられない。漁協ヒアリングの結果「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答であった。	-	-							

着色凡例

	: 治水面（防災面）
	: 利水面（水利用面）
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A：改善傾向、B：維持傾向、C：悪化傾向
 【状態】 a：良い状態、b：普通状態、c：悪い状態

評価凡例

○：問題なく良いレベル
 △：普通のレベル
 ×：問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

「耳川通信簿」 耳川流域全体（令和2年度）

資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	事務局評価		領域の評価	評価・改善委員会の評価
資料 ③-1	山地 領域	(1) 崩壊地からの土砂流出	×	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 令和2年度は、裸地面積、ダム堆砂、ヒアリング（崩壊地、自然景観）、土砂災害発生件数で、「悪化傾向」の評価があったが、その他の項目は「維持傾向」であり、「悪い状態」の評価となった項目がなく、多くの項目で概ね「普通状態」が維持されていることから、山地領域は総合的に「△」と評価される。	山地領域	○ △ ×
		(2) 土石流等の土砂災害の発生	×			
		(3) 自然景観の消失	○			
		(4) 生物生息生育環境の変化	△			
		(5) 産業基盤の流出	△			
		(6) 湧水緩和機能の低下	△			
		(7) 洪水緩和機能の低下	△			
		(8) 砂防施設容量減少	○			
資料 ③-2	ダム 領域	(9) 貯水池末端部治水安全度低下	×	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 令和2年度は、ダム堆砂、水質、底生動物、付着藻類、ヒアリング（全項目）に関して「悪化傾向」、またダム堆砂、水質、ヒアリング（全項目）、で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。	ダム領域	○ △ ×
		(10) 利水容量の減少	△			
		(11) 取水口の埋没	△			
		(12) 放流設備の機能障害	-			
		(13) 利水設備の機能障害	-			
		(14) 生物生息生育環境の変化	×			
		(15) 生物生息空間の連続性遮断	×			
資料 ③-3	河道 領域	(16) 付着藻類の変化	×	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 令和2年度は、ヒアリング（全項目）、付着藻類、水質、底生動物、水質、底生動物に関して「悪化傾向」、またヒアリング（全項目）、水質、河道縦横断（取水口）に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河道領域は総合的に「△」と評価される。	河道領域	○ △ ×
		(17) 河川景観の変化	△			
		(18) 生物生息生育環境の変化	×			
		(19) 瀬・淵の消失	×			
		(20) 橋脚の不安定化	△			
		(21) 護岸基礎部の被災	△			
		(22) 取水の不安定化	×			
		(23) 治水安全度低下	△			
(24) 氾濫発生時の被害拡大	-					
資料 ③-4	河口・ 海岸 領域	(25) 生物生息生育環境の変化	△	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 令和2年度は、土砂除去量、ヒアリング（全項目）に関して「悪化傾向」、また河道縦横断に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。	河口・海岸領域	○ △ ×
		(26) 防災機能の低下	-			
		(27) 親水空間の減少	-			
		(28) 港湾施設の埋没	△			
		(29) 治水安全度低下	○			
		(30) 船舶の航行（操業上）の支障	×			
		(31) 海岸環境悪化	△			
		(32) 漁業（操業）の支障	△			
(33) 氾濫発生時の被害拡大	-					
総合評価		【耳川水系目標】 耳川をいい川にする 【評価コメント】 令和2年は、山地領域、ダム領域、河道領域、河口・海岸領域ともに普通レベルであり、耳川水系全体として、総合的に普通レベル「△」と評価される。 しかしながら、悪い評価の問題・課題が見られることから、今後も引き続き各種行動計画を推進していく必要がある。		耳川水系	○ △ ×	
				△		

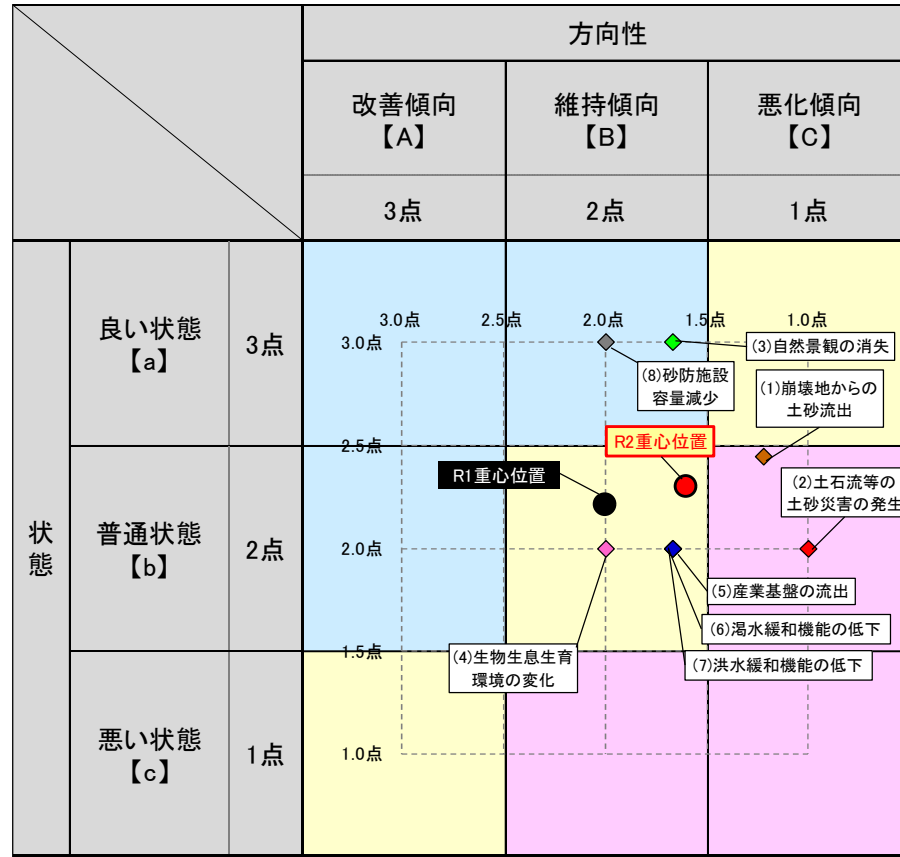
着色凡例

	: 治水面（防災面）
	: 利水面（水利用面）
	: 環境面

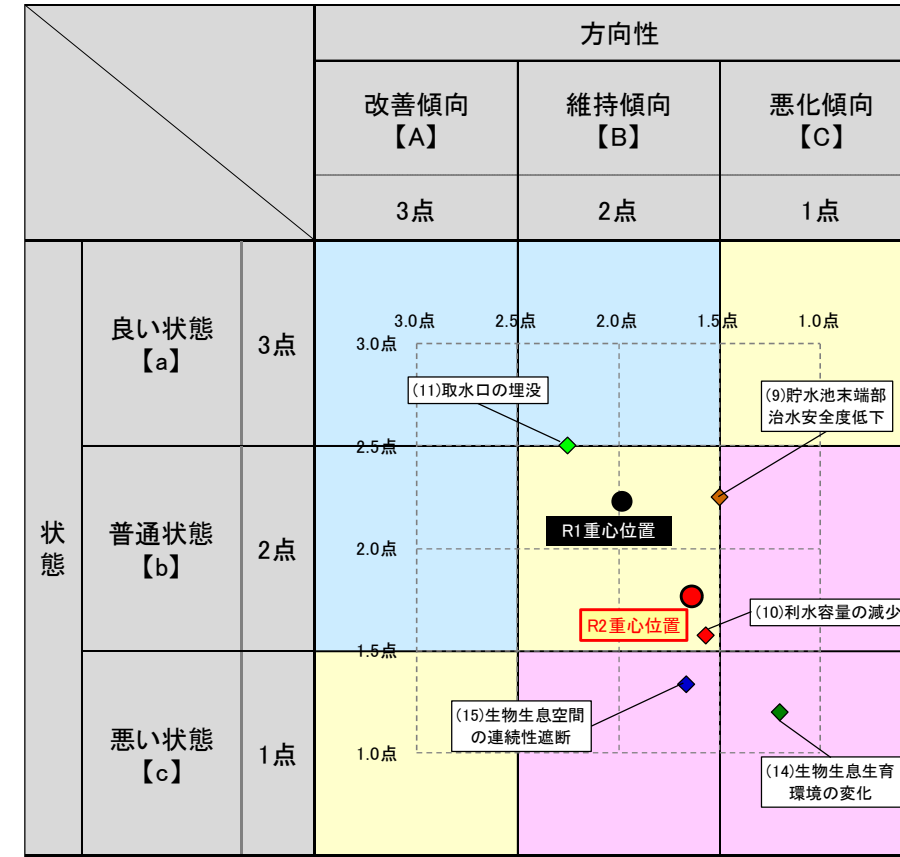
課題評価の凡例

○	: 問題なく良いレベル
△	: 普通のレベル
×	: 問題があり悪いレベル

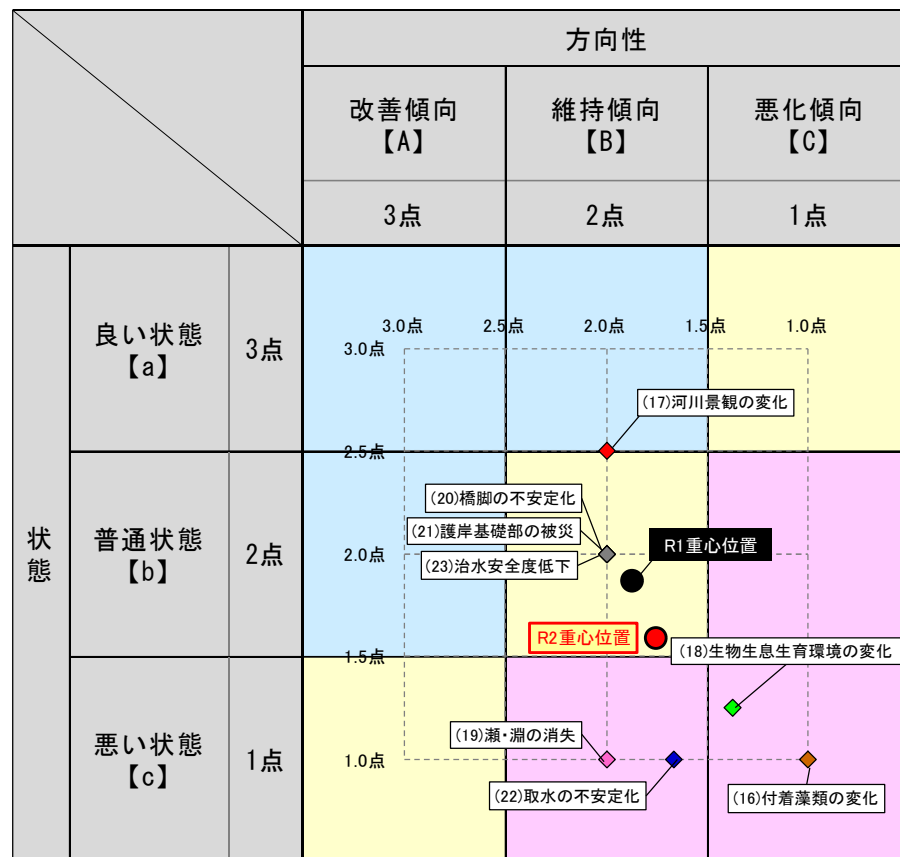
山地領域の総合評価（令和2年度）



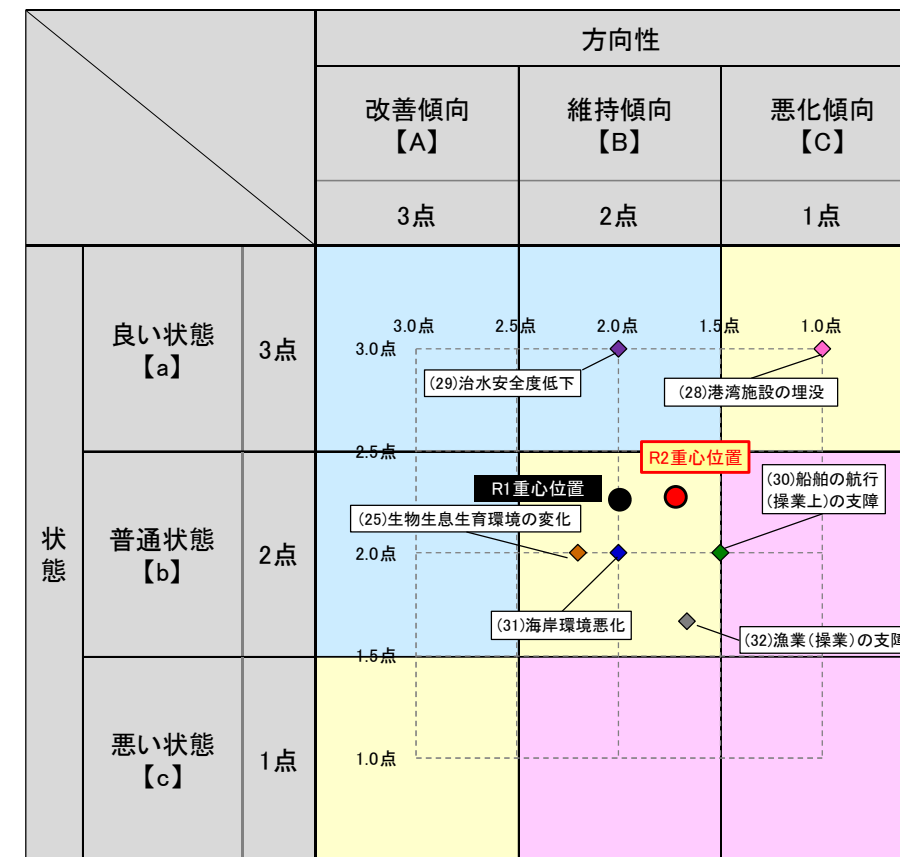
ダム領域の総合評価（令和2年度）



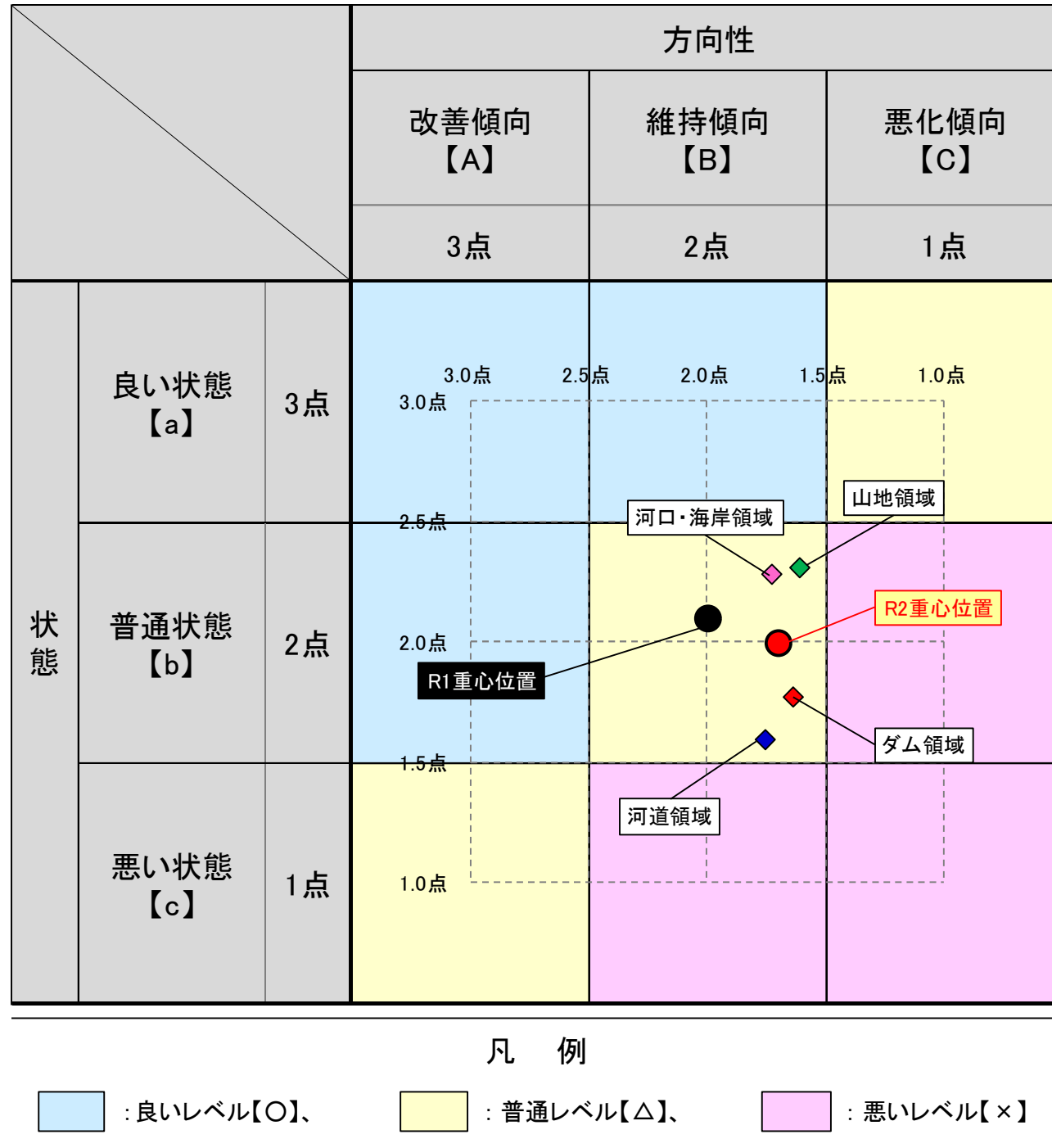
河道領域の総合評価（令和2年度）



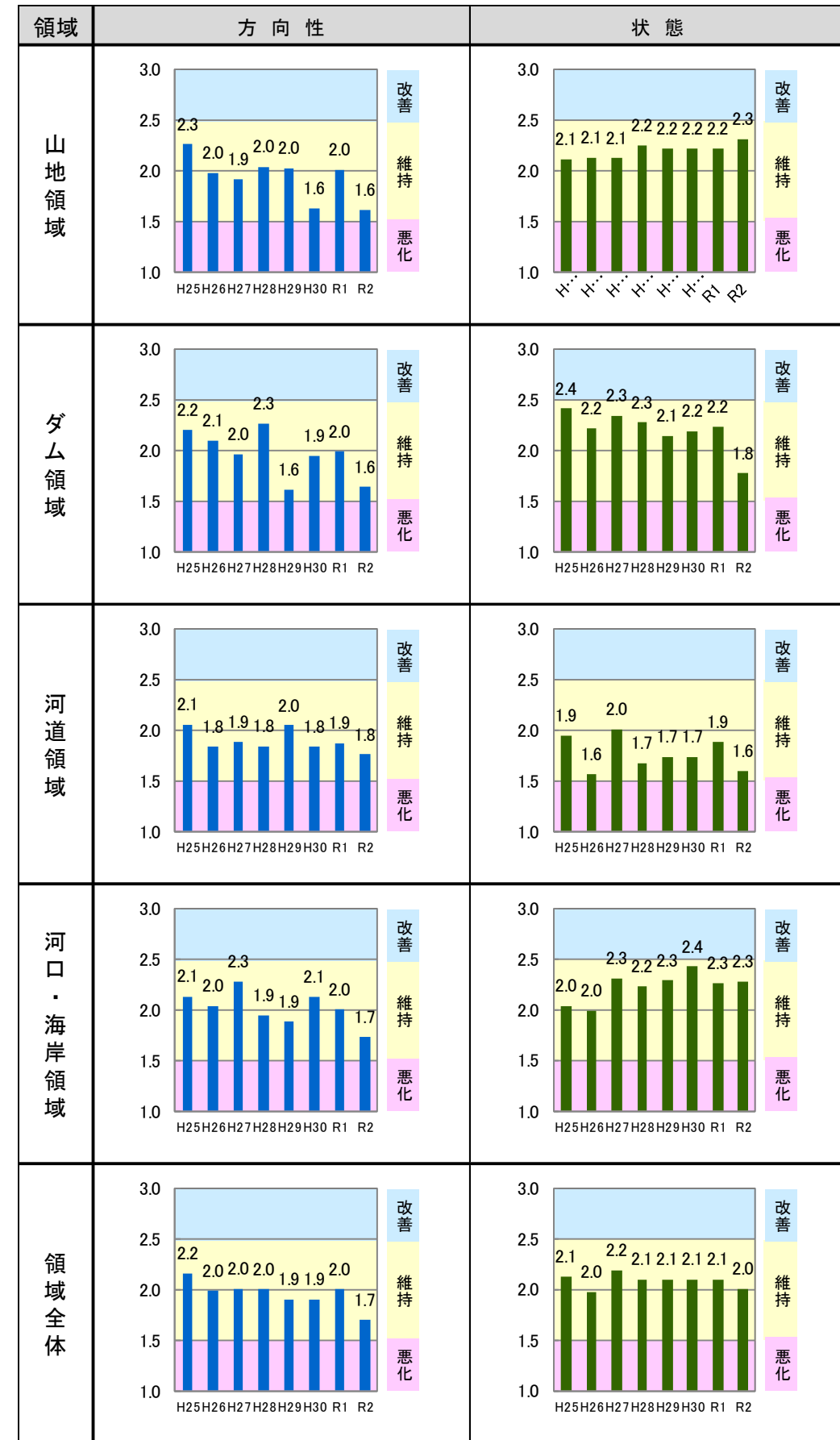
河口・海岸領域の総合評価（令和2年度）



耳川流域全体の総合評価（令和2年度）



注1) グラフは領域ごとの評価結果をプロットしている。
 注2) 重心位置は、これらの評価結果の総合的な位置付けを示したものである。



注) 評価手法を改良しているモニタリング項目があるため、正確に経年変化を捉えていないケースがある。